

昭和こいよう会便り



第21回趣味の作品展を終えて

会長 高島 善行

10月12日(木)から14日(土)まで、名古屋市市政資料館3階第2～第4一般展示室で昭和鯨城会会員の趣味の作品展を開催しました。日頃は見ることのできない会員の趣味や特技を毎年この時期に披露しています。今年は33名の方に出展していただき、その力作64点を展示しました。(昨年度33名68点)

また、来場者への記念品として、今年も28期女性会員10名に「幸せのフクロウ」を150個作成していただき、希望者に配布して好評を博することができました。来場者は、初日75名、2日目32名、最終日51名の合計158名でした。会場が昭和区から遠いにもかかわらず、去年並みの来場者数で盛況のうちに終わることができ、作品を出展していただいた会員の皆さんに感謝いたします。また、期間中、展示・受付・接待・撤収等にご協力くださった方に感謝するとともに、当会会員および他鯨城会会員の皆さん方に多数ご来場いただき、誠にありがとうございました。

第 21 回 趣味の作品展

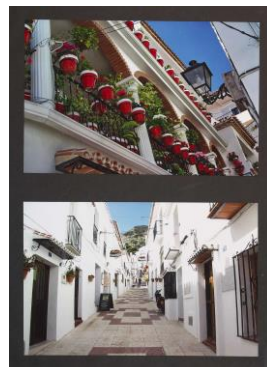
開催期間 令和5年10月12日(木)～14日(土)
 開催場所 名古屋市市政資料館3階 第2・3・4一般展示室
 出展者数 33名、作品数 64点、来場者数 158人

写
真



名駅のモニュメントは？ 世界一？大きく・臭い花？

26期 藤田 保志



白い街(スペインミナス) 1 白い街(スペインミナス) 2

28期 黒尾 純一



影



緑の絨毯

29期
阪本
勝



仁和寺のつつじ



仁和寺の桜

31期
小川
賢雄



メルトグラス氷河 30年後には見られなくなるかも



次ほどの山を滑る？

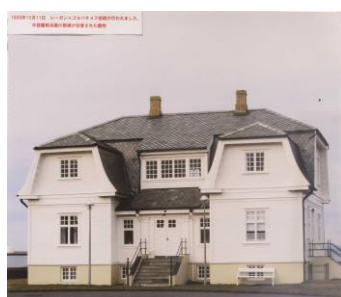


アルペンローゼとシャモニー針峰群

32期
後藤
恵津代



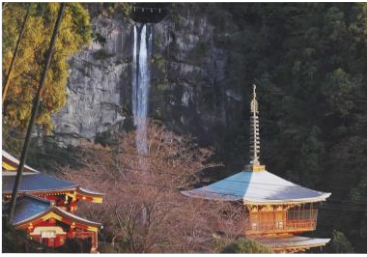
猿岩



歴史的会談場所 レイキャピック 札文島固有種レブンスユキソウ



32期
水野
晃



(上) 朝立ち



(右) 核心

32期 伏屋 満

ステンドグラス

パ
ソ
コ
ン
ペ
イ
ン
ト
画



ステンドグラス(花)

27期 高島 光子



薔薇(花)

(右) 幸せの青い鳥、(下左)、
天使の置物、(下中) カラー
(花)、(下右) ティッシュボックス、



33期 秋山 敦子



チューリップ

27期 松永 文子



水仙

28期 佐藤 富士子

水
彩
画



北アルプス開田高原



安曇野

20期 奥中 さと子



奥信濃

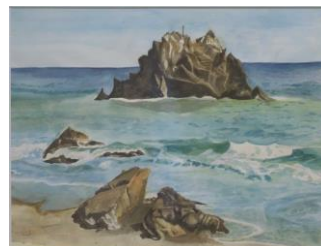


大鷲

31期 杉江 恵理子



花の寺(室生寺)



渥美の海

28期 高橋 正子



森の秋

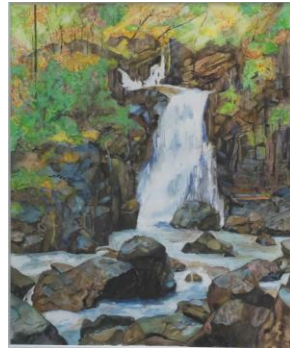
26期 稲垣 幸男



焼岳



老舗 古梅園
33期 中村 誠司



仙樽の滝



眠招き猫(ジブリ)



輝き



レトロ組曲
33期 早瀬 芳二



ヨーロッパの街並み



華麗(花言葉)



トリックアート
28期 大河内 早苗



香嵐溪の秋

29期 平石 茂



常滑焼



夢の中

28期 榎原 寿々子

陶

芸



カレー皿

31期 小川 賢雄

カレーのトレイ



水差し

24期 亀井 栄子



シェイクランプ

27期 松永 文子

折
り
紙



パーツを組み合わせて作った籠
万華鏡
27期 横田 寿子

手
工
芸



幸せのフクロウ

28期女性10名
石黒良江、伊東和世、大河内早苗、加藤春子、
近藤テル子、榊原寿々子、佐藤富士子、高橋正子、
長谷川みや子、原田千里



花かご
28期 石黒 良江

竹
工
芸



竹手提げ籠
28期 高橋 正子



お雛さま
28期 石黒 良江



お雛さま
28期 大河内 早苗



お雛さま
28期 高橋 正子

和
装



フェルトのバック3点
32期 服部 三津江



和装リフォームショール



和装リフォームコート

32期 小川 由美子

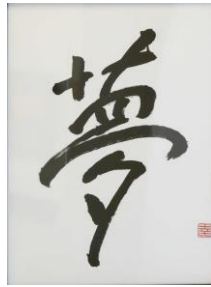
水墨画



竹2本

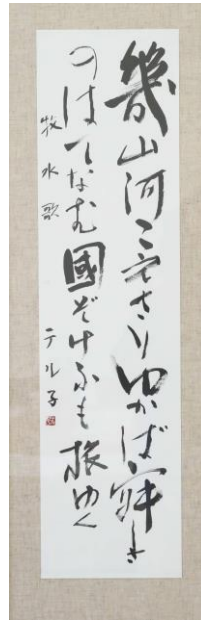
30期 原田 豊美

書



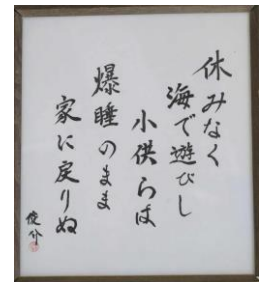
夢

26期 稲垣 幸男



牧水の歌

28期 近藤 テル子



(上) 短歌 A

(下) 短歌 B

26期 大野 俊介

自由作品



ミュージアム北海道

31期 細野 博行



「行事等アルバム」の掲示



作品展関係者

行事レポート

名古屋港めぐりに参加して

28 期（国際）御器所 山田 茂樹

昭和鯨城会 9 月 15 日の行事「名古屋港めぐり」は晴天にも恵まれ、38 名の参加で行われました。名古屋港管理組合の港務艇「ぼーとおぶなごや」に乗船し、約 1 時間 10 分ほどの快適なクルージングでした。私事で恐縮ですが、定年まで物流会社（倉庫業）に勤務し、入社後 10 年間ほどは港湾運送業に携わっていましたので、名古屋港がとても懐かしく、勇んで参加を申し込みました。入社当時の港はコンテナ船の黎明期でもあり、港湾作業は手作業で運搬も舢（はしけ）によるものが主流でした。今回の集合場所のガーデンふ頭は、当時は西ふ頭、中央ふ頭、東ふ頭と 3 つにわかれており、中央ふ頭からは各現場に港湾労働者（なかせ）を運ぶ足船（ボート）が頻繁に出入りし、朝夕は壮観でした。純白の船体の港務艇が離岸すると、すぐ右手に大手ふ頭（当時は 4 号地バナナふ頭）稲永ふ頭（当時は 2 つのふ頭があり、第 1 が印パ航路、第 2 が北米航路の優先岸壁）が見えてきました。



船内風景

多くの本船（貨物船）が着岸し、活況を呈していた面影は全くありません。現在の主流であるコンテナ船は、名古屋港西部の飛島、弥富、鍋田の各ふ頭に着岸するためこの地区では内航船を目にする程度で、港見学の実感はまだわきません。やがて左手には日本製鐵（旧新日鉄）の製品と原料岸壁が遠望でき、ちょうど

鉄鉱石運搬船が着岸する様子が見られました。

名港トリトンをくぐると金城ふ頭です。このふ頭にはガントリークレーン（コンテナを積み下ろしする機器）が初めて設置されましたが、現在はコンテナの拠点西部地区に移ったためすべて撤去され、当時の面影はここにもありません。今は自動車運搬船が主流です。



飛島ふ頭

庄内川の河口を横切ると多くのガントリークレーンが林立する飛島ふ頭です。その西側の水面は、かつては西部木材港として多くの木材運搬船（原木を運ぶ）が寄港していました。この西部木材港（西 4 区）は、昭和 34 年の伊勢湾台風による甚大な被害を教訓として名古屋港港頭地区にあった貯木場を移転し、整備されたものでした。

しかしながら、現在は原木ではなく、ほとんどが現地で製材加工されコンテナに積み込まれて輸入されますので、ここも当時の面影はありません。

やがて弥富ふ頭、鍋田ふ頭に近づくと数隻のフルコンテナ船が停泊中で、ここが貿易港であることをやっと実感することができました。高潮防波堤付近で左に舵を切り、右手に多くのグレートターミナル（穀物倉庫）のある北浜ふ頭を眺め帰途に着きました。

普段体験できないこのような企画を立案頂いたご担当者に深く感謝いたします。



記念写真

ボランティア報告

素焼き土鈴の制作と絵付け行事

33期（生活A）御器所 片岡 晴彦

毎年、昭和鯉城会では、「素焼きの土鈴の制作」をしその素焼き土鈴に「遊びの広場」と「昭和区区民まつり」で絵付けをする場を提供しています。準備から販売まで、ボランティアはのべ59人が参加しました。

【素焼きの土鈴の制作】

今年度は6月29日、7月27日、8月31日の3回、延べ37人が集まり、鯉城学園陶芸専攻OB指導の下で、あーでもないこーでもないと楽しく制作しました。

土鈴制作の作業場は、この春に新築されたばかりの社会福祉法人「名古屋ライトハウス」です。エアコンが効いたこれ以上ない環境でした。



制作風景

●土鈴の作り方

1. 粘土で鈴の中に入れる丸玉を予め作っておきます。
2. 20キロの直方体の粘土を、厚さ5ミリの板状に糸で切ります。
3. 丸玉を新聞紙でくるみます。
4. 餃子の皮で肉を包み込むように、丸玉をくるんだ新聞紙を粘土の板で包み込みます。
5. 形状を好きなデザインに整えます。
6. 切り込みを入れます。
7. これを焼成(素焼き)します。(素焼きはライトハウスに依頼しました)

素焼きをすることで、中の丸玉と外側の球形だけが土器として残り、新聞紙は灰になって孔や切れ込みから取り除くことができます。

●良い音のために気付いた点

- ・粘土の壁は薄く均一にする。
- ・空間は大きくする。

切り込みの形状や大きさは、音色に大きく影響するようには思いませんでした。

●素焼き後に見つかる失敗例

- ・壁にヒビが入ることがある。
- ・壁面に穴が開いてしまうことがある。
- ・デザインで細かい突起がある場合は、折れ易い。
- ・中に丸玉を入れ忘れることがある。
- ・切り込みが空間に貫通していないことがある。



作 品

新聞紙を粘土の板で包み込む時、こんなにしわくちゃでちゃんと鈴の形にできるのか不安になります。しかし粘土のシワや継ぎ目を押したりこすったりしていると、いつの間にか滑らかな表面になっていきます。

土鈴制作に慣れてくると、ただの球体では物足りなくなきます。子供たちにはアンパンマンのようなキャラクターが良いのですが、作るのが難しい。

それで幾何学的形状、動物型、餃子型、縄文土器型など各人各様の個性的な形状にトライしました。串で目や模様を描いたり、花柄のスタンプを押すなど装飾を施しました。図工の授業を思い出します。授業と違って作品に甲乙を付けないから気楽に楽しくできました。

土鈴は、今年の三日間で 138 個を作りました。去年から繰り越した 78 個と合わせると在庫は 216 個となりました。



参加者記念写真

【遊びの広場】

「あそびの広場」は昭和区社会福祉協議会の一組織である昭和区ボランティア連絡協議会が主催するお祭りイベントで、毎年、昭和区役所講堂でハンドベルやダンスのステージショー、ものづくり広場、幼児の広場等が行われます。対象は、主に昭和区の幼稚園や保育園の園児です。

今年は9月3日（日）に開催されました。コロナもあって去年と同じく開催時間を 11 時から 13 時までの 2 時間に短縮して行われました。来場者は親子合わせて 200 人超の大盛況でした。去年が約 150 人でしたからコロナの 5 類変更の影響でしょうか。全体のスタッフは約 40 人です。

昭和鯉城会は、昭和区ボランティア連絡協議会の加入団体であり、毎年素焼きした土鈴に絵付けをする場を提供しています。



絵付け風景



うまくできるかな

まず子供たちが土鈴を一つ選びます。私たち素人が作った拙い土鈴でも喜んでくれました。その土鈴にアクリル絵具で色を塗ります。子供たちは、真剣な表情で色を選び筆を使いました。アクリル絵具が手や服についても一切気にすることはありません。

絵付け後、必要に応じて透明のラッカースプレーでコーティングし、乾燥させてから引き取りに来てもらいました。

「あそびの広場」の絵付けコーナーの運営は、経験を生かして少しずつ効率化しています。

●今回の改善点

①絵具の取り分け方法

去年は絵具の各色を筆で取り分けていましたが、今年はアイスクリーム食後の木のスプーンで必要量を取り分けるようにしました。これですと、絵具に無駄が出ずスプーンを使い捨て出来ます。

②パレットを使い捨てにした

以前は子供たちが使ったパレットを一人毎にバケツの水で洗って使い回していました。アクリル絵具は乾燥するとなかなか頑固で綺麗に取るのに手間がかかります。パレット

は 10 枚 110 円ですので、使い捨てにしました。

③ラッカースプレーのコーティング見直し

従来はアクリル絵具の上から透明のラッカースプレーでコーティングをしていました。今回からはアクリル絵具で土鈴全体を覆っている作品については、ラッカースプレーを省略しました。

上記 3 工程の改善により、絵具の無駄がなくなり、また省人化が可能となりました。

昭和鯉城会の絵付けスタッフは 10 人で、ステージショーの幕間などに子供たちが一度に押し寄せてくるのでてんでこ舞いになりましたが、楽しかったです。

絵付け数は、去年は 32 個、今年は 46 個でした。

【昭和区区民まつり】

昭和区区民まつりは、昭和区役所の昭和区区民まつり実行委員会が主催するイベントです。

10 月 29 日（日）晴天の下、鶴舞公園で約 60 のブースが出店されました。



参加者（一部）

昭和鯉城会は、噴水塔西の 52 番ブースで、土鈴の絵付けと陶芸作品の販売を 12 人のスタッフで行いました。



正 門

○素焼き土鈴に絵付け

大盛況でした。持参した土鈴 95 個は、1 個 100 円にもかかわらずお祭り終了の前に完売しました。子供たちはお母さんやお父さんに付き添われ、ものおじすることなく一生懸命筆を動かしていました。色を塗り終わった土鈴は絵の具を乾かします。番号をふったエフを土鈴につけ、引換券として同じ番号を記載したエフを渡し、ラックにぶら下げて 20～30 分乾燥させてから引き取りに来てもらいました。

大事件が起きました。乾燥した土鈴を取りにみえたのに、その番号の土鈴が無いということが 2 件起きました。子供が作った土鈴を持ち帰ったかたのお母さんはとても残念そうでした。申し訳なかったです。紛失原因の一つはエフの使い回しにあった可能性があります。

私たちの絵付けブースの場所が去年と変わり、メインストリートに面していました。それもあってかお客さんが次から次へとみえてスタッフは食事を取るまもなく頑張りました。

絵付け数は、去年は 83 個で、今年は 95 個でした。



絵付け風景

●今後の改善点

①土鈴紛失防止のためのエフの使用法

紛失防止策として、来年からはエフの使い回しを止めて新品のエフに番号を書きま

す。乾燥中にエフが土鈴から外れないようにしっかり付け、引き渡し時には確実に番号照合をします。

②お客さん整理役の配置

お客さんが集中すると收拾がつかなくなってミスも起こります。ブース前に集金&順番整理係を一人配置したいです。

③土鈴につける紐の色

土鈴をぶら下げる紐は、ビニール紐ではなく見栄えの良い紐を準備しました。今回は白、赤、ピンクとあって、色選びだけで時間がかかりましたので、次回からは男女ともに好評だった白一色にします。

○陶芸作品の販売

鯉城学園陶芸専攻 OB が作った皿、茶碗、フルーツ籠、花瓶など約 90 点に厳正な値段設定をし、販売しました。細かいところまで丁寧に作られた作品ばかりで、素人とは思えない大作ぞろいでした。開始早々お客さんがひっきりなしに訪れ、最終的には約 9 割が売れました。



陶器販売風景

【総括】

私たち昭和鯉城会が土鈴を粘土から制作していることを、他の区の鯉城会の方に褒められました。

私たちは先輩がルールを敷いてくれたため当たり前と思っていたのですが、案外誇って良いことかも知れません。これはボランティア活動ですが、自分たちも楽しめました。

陶器の作品を作って寄付してくださった陶芸専攻OBの皆さん、スタッフとして頑張った昭和鯉城会の皆さん、ありがとうございました。来年も頑張りましょう。

(今年度の土鈴制作・使用数のまとめ)

日程	項目、行事	参加者 (人)	制作数 (個)	使用数 (個)	残数(個) (素焼き前・後)
前年	繰り越し				78(0・78)
6月29日	制作	12	60		138(60・78)
7月27日	制作	10	39		177(99・78)
8月31日	制作	15	39		216(138・78)
9月3日	遊びの広場	10		46	170(138・32)
10月26日	焼成不良・その他			21	149(54・95)
10月29日	昭和区区民まつり	12		95	54(54・0)

(今年度の陶芸作品受入・販売数のまとめ)

項目	受入数(個)	販売数(個)	残数(個)
去年からの繰り越し			10
鯉城学園陶芸専攻OBから寄付 1	55		65
〃 2	51		116
10月29日昭和区区民まつり		80	36

会員の広場

道路清掃活動に参加しての感想

34期（健康A）松栄 川瀬 月子

『ボランティア活動はある意味、自分自身の心を満たすものではないでしょうか』。毎月道路清掃するクリーンパートナーについて、5月17日（東郊通2丁目より御器所まで）、6月21日（荒畑龍興寺北側より街並み）、7月19日（荒畑龍興寺北側より街並み）、いつもどおり2班に分かれ実行しました。そよ風に身を任せ、汗を流し、街並みの騒音も意に介せず、唯々ゴミ（空き缶、タバコの吸い殻、使い捨てマスク、ペットボトル）等を拾う事に集中し、1つ拾う毎に自分の内に潜んでいる邪念を1つ消滅させるような心地良い時間とも言えました。



清掃作業風景



清掃作業風景

役に立ったと自覚することによって大きな充実感を得られ、いずれも得難い体験であり、誰にとっても忘れられない癒しの時間となったことと思います。

作業中、鯉城大学卒業生と出会ったり、高齢の方より深々と頭を下げ感謝の



清掃作業風景

言葉を頂戴したりしました。自分から参加したご褒美なのでしょう。

編集後記

昭和鯉城会の夏～秋の活動は、土鈴の絵付けなど地域の方々と連携したボランティア活動や、例年どおりの作品展を行いました。土鈴づくりや作品づくりなどの準備活動も充実しておりましたが、今号ではこれらの様子を含めて報告させていただきました。

昭和鯉城会 「昭和こじょう会便り」 2023年12月112号

発行責任者 高島 善行

広報委員長 伏屋 満 副委員長 中村 誠司

広報委員 杉江 恵理子、川瀬 月江

表紙写真 「趣味の作品展」風景（令和5年10月14日、於；名古屋市市政資料館）

名古屋市高年大学鯉城学園・昭和鯉城会共同発行